

23. 8. 7 目に入れても痛くない孫。でもいざ世話を頼まれると、どうすればいいかわからずオロオロー。そんなおじいちゃんに孫育てのコツを伝授する、イクメンならぬ「イクジイ」養成講座が東京都内で開かれた。



『イクジイ養成講座』で熱心にメモを取る参加者たち＝東京都文京区

イクジイになろう！

知っておきたい孫育てのコツ

新米おじいちゃんの孫育てを応援する「イクジイプロジェクト」の一環で、NPO法人「ファザリング・ジャパン」(安藤哲也代表)が初めて企画した。

なぜ今、イクジイなのか。

「両親は仕事で忙しく、おばあちゃんはずっと目に付いてしまいがち。一番ゆったりと孫に寄り添えるのは、実はおじいちゃんです」。ウェブサイトを「孫育て上手」編集長で講師の樺田明子さんは、こう解説する。

兄弟や親戚

が少なく、遊

びもゲーム中

心の現代っ子

たち。核家族化が進み、身近な人が亡くなる経験を経ず大人になる子も多い。「老いていく祖父母の姿を見ることで、他者をいたわる気持ちも生まれる。暮らしの知恵や昔の遊びを伝え、孫とその親の心のオアシスになってあげてほしい」

そのためにも両親との無駄なトラブルは避けたいが、時代とともに変化する子育て方法の違いが原因になることもある。例えば①昔はミルクが

「イクジイ養成講座」で紹介された絵本



編集長の田中尚人さんは、読み聞かせに適した絵本を紹介。「両親が選ばないような物語がいい。親に隠れてこっそり読んであげて」と、おちやめな祖父と孫の関わりを描いた「トム」(光村教育図書)や、カエルとネズミの争いがエスカレートしていく様子を絵だけで描いた「なぜあらしうの?」(BL出版)を薦めてくれた。

5歳と1歳7カ月の孫がいる千葉県習志野市の無職佐藤

敏明さん(70)

は「今風」の

子育てを学ば

うと講座に参

加したが「自

孫と親の心のオアシスに

推奨されたが、今は母乳の離乳食の開始時期は、昔よりゆっく③日光浴は大切だが、今は紫外線対策も必要」などだ。

重要なのは「子の責任者は親」との認識を持ち、あくまでサポートに回ること。共働

きや高齢出産が増え、祖父母が頼られる場面も増えたが「無理なことは『無理』と言う勇氣も大切」と樺田さんはアドバイスする。

絵本出版社「グランまま社」

分の時代と、そんなに大きな隔たりはないのかな、と感じた」と自信を付けた様子だ。安藤代表は「定年退職は組織の卒業で、社会的なリタイアではない。父親時代は子育てをやらなかったという人こそ、孫育てに参加してほしい」と話す。今後はイクジイ向けの料理講座なども開催する予定だ。

イクジイプロジェクトの詳細はファザリング・ジャパンのウェブサイトから。